

和書門
二四九〇七
六七一
一七
冊架函號類

136
內閣文庫
和書
二四九〇七
六一七
九五
函冊號類

內閣文庫	
番號	和 24907
冊數	1 (1)
函號	195 136

195-136

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



道三養生書

			二四九	和書門
		六七	〇七	
一	七	六	七	類
冊	架	函	號	

醫書一ノ三

風小以痛とやある
花とてやぬらうとてくは癰疔ハ即食房事
の積りともある
碎ハ肺飽ハ胃れ之の枝弱と強不好と
根を枯す
宗少成候もほし婦事と世まは老影
一其年の教
命ハ食よるんさくさく出やよとてさ
積とてさくさ
水上のほらさきともぬ玉の結ハほらきて老
のころかひとある
つらにまくの老の毛尾呂汗ありて風入りて

目には川はる
のむと糸糸をうけく何事とも候さう
その甲斐もあ
あつ身は善あさまうかあ〜〜食せ
りあ友ハあつあり
海川の舟をを集めまひ〜ほらうり〜せは
君もにほ〜ひ
彼もあ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
おれなきあり
情をも年小中入さ心あもほら〜あ〜あ
人ハ甲斐あ〜

眼之十禁

一燈二酒之湯口力六以六音七火八尾九白
十細

十統

弓籥や庖丁馬小旗等夜子と連歌と謡
歌のうへ

七歳

物言や音曲敷年相授酒御居合利方
物云

是り七歳云云

於る大々条宗生る世之々情就宗望在
流を以て

干時天正十四丙戌六月音

翠竹院一銘叟

道之

進上 村上次郎右衛門尉友

玉案下以披衣不作以

梅天正十四年八百七代正親町院御宇関白秀吉公
時代也大明神宗皇帝之代萬曆十四年三當元

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

右半井道之翁乃著所書養生之教其
所要食戒忌之脾胃をよむの端を以て
賢故書ありあり人々脾胃と腎成全す
時ハ長命之を病し物不之寸の舌の考ふ
灸食成さし脾胃を破り寸の陰莖の考ふ
養色小溺して腎成をさむ多病終命より
て長く生命令を保り事ありす悲哉

伊勢平菟貞丈

政云明和四年

右道三養生書以多賀氏八十翁之藏本寫之
夫養生之本不待他求節食慎色專氣致
柔是而已篇首三条可謂能盡矣始吾欲著
養生之書中而止今見此養生之書因書卷

端雨

寛政庚戌年

藤厚 跋

